

複式学級における国語科授業の改善に関する研究 小学校高学年を中心に

著者	上谷 順三郎
雑誌名	鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要. 特別号
巻	5
ページ	115-124
別言語のタイトル	A Study of Japanese Language Teaching in Multi-grade Classes Improvement in the Primary Education
URL	http://hdl.handle.net/10232/8949

複式学級における国語科授業の改善に関する研究
—小学校高学年を中心に—

上谷順三郎

A Study of Japanese Language Teaching in Multi-grade Classes
—Improvement in the Primary Education—

KAMITANI Junsaburo

はじめに

『鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要特別号3号』（平成19年3月23日発行）では文学教材の指導法を中心に考察し、本研究紀要特別号4号（平成20年3月15日発行）では説明的文章教材の指導法を中心に報告した。

本稿では、小学校高学年（第5学年・第6学年）を中心に、複式学級における国語科授業改善の案や事例を報告する。内容は以下のとおりである。

- I 教科書教材の内容を報告・紹介しよう（鹿児島県西之表市立住吉小学校）
- II 鹿児島県奄美市立緑が丘小学校
- III 詩を味わおう（鹿児島県霧島市立向花小学校）

I 教科書教材の内容を報告・紹介しよう（鹿児島県西之表市立住吉小学校）

複式だからできる「国語」授業、2学年のまとまりや単元のつながりを生かす授業、一人の時間を充実させる授業を目指して構想した。本研究紀要特別号4号で試みた「教科書教材文の書き換え・書き足し（中学校）」の小学校高学年版でもある。

平成20年6月30日（月）14:05-14:50

鹿児島県西之表市立住吉小学校

校長：飛松博之

5年：6名

6年：7名

担任：福永正之

授業者：上谷順三郎

1 単元

教科書教材の内容を報告・紹介しよう

教材：「千年の釘にいどむ」（内藤誠吾：光村図書5年上）

「森へ」（星野道夫：光村図書6年上）

2 目標

- (1) 目的や相手に応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえることができる。(読むこと：ア)
- (2) 書く必要のある事柄を整理して書くことができる。(書くこと：イ)
- (3) 自分の意図が分かるように話の組立てを工夫しながら話すことができる。
(話すこと・聞くこと：ア)

3 評価規準

- (1) 自分たちが学習している内容を相手にわかりやすく伝えようとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 紹介するのに必要な内容を落とさずに読んでいる。(読む能力)
- (3) 聞き手にとってわかりやすい語句を選んだり、文章を構成したりしている。
(言語についての知識・理解・技能)

4 本時の展開

- (1) 学習のめあてと手順を確認する。(5分)
 - ①「教科書教材の内容をわかりやすく伝えよう」を板書する。
 - ②学習手順を示す。
 - ・前時までの学習内容を上谷に報告する。(国語係)
 - ・自分たちの学年の教科書教材の内容を伝える準備をする。
5年は6年に「報告」する、6年は5年に「紹介」する。
(個人→グループ：5年、6年とも2グループ)
 - ・グループごとにワークシート(次頁参照)に発表内容をまとめる。
 - ・5年は6年に、6年は5年に発表する。
 - ・感想を交流する。
- (2) 前時までの学習内容を上谷に報告する。(5分)
- (3) 自分たちの学年の教科書教材の内容を紹介する準備をし、ワークシートにまとめる。
(20分)
 - ・ワークシートは教科書のもの(5年：62頁、6年：67頁)
 - ・まず個人で(10分)、続いてグループで(10分)
- (4) 5年は6年に「報告」し、6年は5年に「紹介」する。(10分)
- (5) 感想を交流する。(5分)
 - ・6年は5年の「報告」に対して、既に学習したものとして感想を述べる。
 - ・5年は6年の「紹介」に対して、来年学習したいことを述べる。

II 鹿児島県奄美市立緑が丘小学校

1 授業参観日時：平成20年6月16日(月) 14:10-14:55

2 学校・学級等：緑が丘小学校(校長：室之園晃徳)

5年：5名、6年：4名

担任：福元真太郎

3 単元

5年：要旨をとらえよう(光村図書5上「サクラソウとトラマルハナバチ」)

6年：文章を読んで、自分の考えをもとう(光村図書6上「生き物はつながりの中に」)

4 本時(4/9)の目標と評価規準

5年：

目標：サクラソウとトラマルハナバチの関係を読み取り、両者が強く結びついていることがわかる。

評価規準：

受粉のためのサクラソウの工夫とトラマルハナバチの役割を理解している。

おたがいにぴったりのよい協力者であるという両者の関係を読み取っている。

6年：

目標：段落ごとに内容を読み取って、要約することができる。

評価規準：

ポイントとなる言葉や文章を見つけている。

キーワードを中心文をもとに、段落を2文以内にまとめている。

5 授業の視点

(1) 写真、図、コンピュータ等のメディアを活用した文章構成の理解指導

(2) モデル文を提示した意見文の指導(6年)

(3) 異学年に向けた意見発表会

Ⅲ 詩を味わおう（鹿児島県霧島市立向花小学校）

複式学級ではないが、本研究紀要特別号3号で展開した詩の授業を参考にして、子どもたちの自作の詩の発表会を行ったものである。

平成21年3月5日（木）11:40-12:25

鹿児島県霧島市立向花小学校

校長：田中耕一郎

6年2組：30名（欠席1名）

担任：永田洋一

授業者：上谷順三郎

1 単元

詩を味わおう ー友だちの詩を音読紹介するー

2 評価規準

- (1) 友だちの詩を理解しわかりやすく表現しようとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 友だちの詩のよさを理解している。(読む能力)
- (3) 友だちの詩の大事だと思うところを表現を意識して音読している。(読む能力)
- (4) 大事だと思うところや音読の仕方についてわかりやすく説明している。(話す能力)
- (5) 詩の形式的特徴を理解している。(言語についての知識・理解・技能)

3 展開

- (1) 自己紹介：本時の授業への思いについてもふれる。
- (2) 本時の計画紹介：（ここまでで5分 *実際は10分）
友だちと2人で組んで、お互いの詩をみんなの前で紹介・音読する。
 - ①大事だと思ったところ～具体的な言葉を示す
 - ②音読の工夫～強く・弱く、速く・遅く、大きく・小さく、間のあけ方
イントネーション（上げる・下げる）、アクセント、漢字の読み
（作品をよく見て：文字の大きさ・強さ、句読点、字・行間、余白）
- (3) 音読紹介の準備（10分 *実際は5分強）
 - ①隣同士で組む。
 - ・まずは一人で相手の詩を読み、どう紹介するかを考える。
 - ・次に、相手に紹介の仕方を事前に説明する。
 - ・最後に、音読の練習をする。

(4) 発表 (30分 *実際は20分)

① 2人ずつ前が出る。

- ・「〇〇さん・くんの詩を紹介します。」
- ・大事だと思ったところは〇〇です。
- ・そこを〇〇 (みんなにわかってもらう、強調する) ために、〇〇のような工夫をして読みます。

(5) 感想の記述

- ・(4)の感想をノートに書く。(読んでもらって。読んでみて。聞いてみて。)

(6) まとめ (*5分オーバー)

- ・上谷編のアンソロジー (別資料参照) の紹介と配付

【資料】詩集「向花小・6年2組の伝説2009」

私たちと木

伝説を作ること
それはあきらめないこと
それはくじけないこと
それは木のように
すくすく育ち
成長すること

名物

国分の名物
「たばこの花」
向花小六の二の名物
「伝説」

がんばれ

「がんばれ」の一声で
生まれた 私
「がんばれ」の一声で
つくれた友達
「がんばれ」の一声で
ケンカも終わる

いろんな人に支えられて
生きてきた
だけど一番大切な物は

絆

四月のころは棒のように
曲げたらすぐに折れる
だけど今のぼくたちは
たとえることのできない
固いもので
つながっている

ノート

わたしのノートは
まっ白だった。
でも今はまっ黒だ。
あるところにはもうやめろ。
あるところにはでていけ。
あるところにはムリ、ムリ、ムリ。
あるところにはオープン参加。
あるところにはドンマイ。
あるところには気合いだ一。
そして
あるところには十秒八三。

みんなで作った
伝説で。

めいろ

初めのころは
進んでも進んでも
いき止まり
と中であきらめた
こわくなってにげていた
でも今は
出口まで行く勇氣と
あきらめない気持ちを
持っているんだ

口

口は
悪いことを言ってしまう
ごめんねの
ために

絆

みんなで作った宝物
それは
いつしか大きな大きな
そんざいになっていた。

先生

先生は
ぼくたちに
いろんな
ちえをくれる
それを生かすか
生かさないかは
自分が
決めることだ

梅ぼし

この前まで
種なし梅だった

わたし

今では
しっかりと
かんでもわれない
種がはいっているけど

たこやき

まえまで
ぼくらは
たこやきの
きじだった

今じゃたこを
つつめる
けれど

毎日

いろんな気持ちだった毎日
成長していく毎日
楽しい毎日
時間が早く感じる毎日
最高の一年だった

学校

勉強は
きついけれども
がんばれる
ひるやすみ
そして
また勉強また勉強

伝説

みんながいたから
三十人三十一脚、
ドッジボール大会、
色々な伝説が
できたんだ。

橋

橋は支え合って
できている
ぼくたちは
支え合って
生きている

友だち

六年間
うれしいことが
たくさんあったけど
一番うれしかったのは
みんなと
「友達」になれたこと

教室

傷ついた時
泣いた時
そこにいれば いつも
仲間がいる
そこは いつも
心が あたたまる場所

シメ鯖

シメ鯖
このしめが
命

こういうなみだ

なみだというのは、
悲しんで、
くやしんで、
喜こんで
そういう時になみだを出す。
こういうなみだを
また出してみたい。

あふれるもの

この一年で
どれだけの汗と涙
どれだけの笑顔を
こぼしたっけ
でも今は
汗と涙と笑顔を
六年間の結晶だ

四つ葉

一つの葉っぱに喜び
一つの葉っぱに怒り
一つの葉っぱに笑い
一つの葉っぱに悲しみ
色々な気持ちがつまった
四つ葉。
でも 私は
四つ葉じゃ
たりない。

旅立ち

バックの中に
今までの事
全てつめこんで
荷作りは終わった。

さあ
行こう
新たな旅立ち
待っている。

太陽

わたしたちは
色々な太陽を
集めてきた

仲間

一人より
二人
二人より
三人
三人より
やっぱり
三十人がいい

31人の笑顔

いつも笑顔
くやしいとき、うれしいとき、

31人は、いつも笑顔

ドッジボール大会

昨日
ドッジボール大会があった。
みんなおにになった。

おめん

ありがとう
福がうまれる
ケンカした
オニが出てくる
なくした
こさめがふる
みんながいと
花がさく

笑顔をもって花になる

カッチ、カッチ、カッチ
時間はどんどんへってゆく
時間がたつたび笑顔はどんどん
ふえていく
さいごには
花がさく

涙のち伝説

汗と心
歓喜の叫び
涙 涙 きっと笑顔
その道きっと伝説となりし

魂

いろいろな
魂があるけど
世界一なのは
あなたたちの
魂です。